

報 告

地域と大学が連携した総合型地域スポーツクラブとしての チアリーディング教室の取り組み

高橋 仁美¹, 来田 宣幸²
坂井 智明^{3,4}, 竹田 正樹^{3,4}

An Introduction of Cheer Leading Classroom for the Children of Local Residents Co-operated with Community and University

Hitomi Takahashi¹, Noriyuki Kida²
Tomoaki Sakai^{3,4}, Masaki Takeda^{3,4}

Doshisha University and Kyotanabe-city co-operated with each other and managed community sports club from 2006 to 2007. In this article, the authors reported the cheer leading classroom for the children of local residents which was held as one of classrooms of this sports club. The university students instructed the basics and technique of cheer leading to the children using facilities of the university. The questionnaire survey to the children revealed that the children satisfied the class room of the cheer leading. The children had an opportunity of presentation of cheer at the tournament of handball of national primary school of Japan. This presentation contributed to motive the children to perform cheer leading at the tournament. On the other, university students studied the difficulty of instruction and teaching of cheer leading to the primary school children. It is suggested that the co-operation of university, self-governing body and local residents was needed to keep and improve this sports club.

【Key words】 community sports club, university, cheerleading

【キーワード】 総合型地域スポーツクラブ, スポーツ振興, チアリーディング, 地域貢献

I. はじめに

1. 背景

国はこれからのスポーツ振興の基本計画において、具体的な到達目標を示しながら、総合型地域スポーツクラブの実現に向けた計画を明確にした(文部科学省, 2006)。基本計画では「生涯スポーツ社会の実現」に向けた政策目標として、2010年までに「成人の週一回以上のスポーツ実施率を50%にする」ことが示されている。その達成のために「総合型地域スポーツクラブの育成」があげられている。地域のスポーツ振興

においては、住民のニーズが多様化していることやこれまでに前例のない総合型の地域スポーツクラブの育成が求められる。したがって、地方自治体では、アイデアと他の団体との連携を進めることが特徴あるクラブの発展につながるといえる。

国の基本計画に基づいて、京田辺市のスポーツ振興計画の中にも総合型地域スポーツクラブの育成が盛り込まれている。2005年に行われた京田辺市の住民の体育スポーツに関する市民アンケートによると、スポーツや健康問題に関心を持ち、出来ることならば、健康の保持増進のためにスポーツ活動が続けたい、仲

1 同志社大学スポーツ健康科学部 嘱託講師 (Faculty of Health and Sports Science, Doshisha University)

2 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 (Kyoto Institute of Technology)

3 同志社大学スポーツ健康科学部 (Faculty of Health and Sports Science, Doshisha University)

4 同志社大学健康体力科学研究センター (Health and Human Science Research Center, Doshisha University)

間づくりをとおして活動に参加したいという人が多く、「人づくり、生きがいづくり、体づくり」としてのスポーツへの関心が高いことがうかがわれる。また、質の高い指導や施設、総合型地域スポーツクラブへの関心が高く、住民の運動機会への欲求が高いといえる。

そのような背景の中、2008年4月25日に京たなべ同志社スポーツクラブ（以下本クラブ）が設立された。本クラブは、京田辺市と同志社大学が連携して実施されるスポーツクラブであり、同志社大学はスポーツ施設を提供し、スポーツ指導の専門家が指導をおこない、大学体育会の学生がスタッフとして指導に携わっている。一方、京田辺市は、行政としての支援をおこない、地域におけるスポーツ振興の役割を果たすことになる。2008年の本クラブ設置に向けて、2006年から様々な準備がおこなわれ、複数のスポーツ教室が開催された。そのひとつとして小学生の児童を対象としたチアリーディング教室が開催された。

2. 京田辺市におけるチアリーディング教室

京田辺市では水泳やサッカー、野球、剣道など小学生を対象としたいくつかのスポーツクラブがみられるが、種目が限られており、全体として小学生の運動機会が少ない。京田辺市で実施された体育スポーツに関する市民アンケートの結果からも、幼児や児童を対象としたスポーツ教室に対する期待が大きい。したがって、小学生を対象としたスポーツ教室には住民のニーズがあると判断し、今回は小学生を対象としたスポーツ教室を実施することにした。また、京田辺市では、チアリーディングを取り入れた体操が複数の幼稚園でおこなわれており、チアリーディングを受け入れる土壌が京田辺市にはあると考え、京田辺市のスポーツ振興の観点からも、今回は小学生を対象としたチアリーディング教室を開催することとした。

チア（cheer）とは、「人を応援したり、元気にしたりする」という意味であり、人を応援するために声を出し、体を動かし表現することをチアリーディング（cheerleading）といい、チアリーディングする人をチアリーダー（cheerleader）という。チアリーディングでは、一般に「チアスピリット」という言葉が使われており、チアスピリットとは人のため、地域のため、社会のために応援するという心のことである。チアリーディングは、チアスピリットに基づき、体力的、技術的な向上だけでなく、献身的な心身両面での向上を目指して努力する点が他の競技スポーツとは大きく異なる。スポーツとしてのチアリーディングには、スポーツ応援、イベント、競技の3つの側面がある。スポーツ応援とは、競技場において選手を応援したり、観戦者がハーフタイムなども楽しめるよう会場を盛り上げたりすることである。イベントとは、学園祭や入

学式など学校や地域における記念式典などにおいて演技をおこなうことである。競技とは、競技者として競技会に参加してチアリーディングの技術について客観的な評価を受けることである。以上のように、チアリーディングはスポーツ応援やイベントにおける「応援する楽しさ」と競技として「応援される楽しさ」のふたつの特徴を持つスポーツである（日本チアリーディング協会、2006）。

今回のスポーツ教室では、同志社大学応援団チアリーダー部（以下チアリーダー部）が中心となって、小学生への指導をおこなう体制とした。チアリーダー部は技術力向上のため、技術練習や体力トレーニングをおこない、全日本チアリーディング選手権大会や学生チアリーディング選手権大会などの競技会に参加している。また、野球部やアメリカンフットボール部など体育会の応援活動を行い、観客の誘導などを通して、大会を支える役割も果たしている。さらに、学内外のイベントにも積極的に参加しており、社会に対する貢献活動もおこなっている。たとえば、入学式や創立記念式典、五輪壮行会など大学の記念式典などであり、そのほかに京田辺市の公的な行事のイベントでの応援活動である。したがって、京田辺市の住民もチアリーダー部を目にする機会も多くあったので、京田辺市の総合型地域スポーツクラブの内容にふさわしい活動ができると取り組んだ。

学生は平日頃のクラブ活動で鍛錬している内容を子ども達に教えることで自分自身の基本技術の確認ができ、指導方法の研修を積むことで礼儀作法や言葉の使い方や印象的な指導の方法を学ぶことができると考えられる。したがって、教室を開催する意義としては、単に教室への参加者に対するサービスとしてだけでなく、指導する学生にとっても自分達のステージ上での表現力の向上に役立てることも意図して実施した。最近の大学生は受け身的で、企画力や教える力に乏しく、社会的能力が低下していると指摘されることが多い。また、以前は大学内外における様々な活動を通して大学生は社会的な態度を養ってきたが、最近ではそのような力を鍛える機会が減少しているという指摘もある。したがって、学生が指導スタッフとして、小学生に教えることは、学生指導スタッフも多くのことを学び、成長するよい機会であるといえる。与えられた期間内に、仲間と共に目標に向かい努力し、ひとつのものを上げる喜びと楽しさがあるということ子ども達と共に学んでいくことができる。目的を達成することで子ども達やその保護者から喜びの声を身近に聞くことができ、役に立つことの喜びを実感できる。人に指導するということは自分達の精一杯の表現力がどれほどの人の心に刺激を与えられるかということ

学び、反省と向上の糧にできる。

本稿では、総合型クラブの設立に先だって、準備期間中である 2006 年から 2007 年にかけて開催したチアリーディング教室の概要をまとめ、その活動を振り返り、今後の活動への課題を整理する。教室を開催するにあたっての学生指導スタッフへ事前研修内容、教室終了後の受講児童とその保護者へのアンケート調査の結果、学生指導スタッフと事務局スタッフとの事後研修内容をまとめ、今後の総合型地域スポーツクラブがよりよく発展するための課題を明らかにすることを目的とする。

Ⅱ. チアリーディング教室の概要

1. 日程および受講児童

チアリーディング教室は 2006 年 7 月より開始され 2 年間で合計 5 期実施した（表 1）。いずれの教室も週末の土曜日または日曜日に 5 週間連続して開催された。2006 年度は 5 回で 1 期として 2 期実施され、2007 年度は 4 回で 1 期として 3 期実施された。

参加対象者は京田辺市内に在住する小学生とし、2006 年度の募集定員は 1 期が 30 名、2 期が 60 名であった。1 期では、募集を 1 年生から 3 年生までに制限し、2 期では全学年を対象として募集し、1 期に受講できなかった児童を優先した。2007 年度は、募集定員をすべて 30 名程度とし、希望時期により調整した。実際の参加者人数および学年別の人数は表 1 の通りであった。

参加費は、保険料を含み 1 期 2,000 円であり、その他にかかる費用としては、練習・発表用に購入する T シャツ代 1 枚 2,000 円のみであった。教室の広報活動は、案内チラシを京田辺市の全小学校に配布し、京田辺市が年 4 回発行し全戸配布している「学びの情報誌」に案内を掲載し、京田辺市のウェブサイト上に情報を公開した。

2. 実施体制

毎回のチアリーディング教室は、1 名の講師、6 名

の学生指導スタッフ、4 名から 6 名の学生補助スタッフ、2 名から 3 名の事務局スタッフ（京田辺市および同志社大学）による体制で開催された。

講師はチアリーダー部の監督である高橋仁美がつとめ、教室全体を統括し、振り付けの作成や学生指導スタッフへの指導などを担当した。学生指導スタッフは、チアリーダー部の部員の中から希望者 6 名がつとめ、受講児童への演技指導や振り付けの考案、作品の流れの考案を担当した。受講児童約 10 名を 1 グループとして各グループに 2 名の学生指導スタッフが担当として指導にあたり、同じ学生指導スタッフが期間中は、同じ受講児童を担当するようにした。学生補助スタッフもチアリーダー部に所属する 4 名から 6 名が毎回交替でつとめ、ビデオ撮影や音響係、練習の補助などの役割を担当した。

事務局スタッフは京田辺市教育委員会の職員 1 名または 2 名と同志社大学スポーツ支援課の職員 1 名によって構成されており、京田辺市教育委員会の職員は、出席の確認、資料作成、会費の徴収、教室当日の誘導掲示、救護、写真撮影、保護者誘導などを担当した。同志社大学スポーツ支援課の職員は施設の鍵の開閉や空調管理、安全管理などを担当した。

3. 教室の内容

チアリーディング教室は、成果の発表として最終日に演技を一般公開することを目標として、その応援ルーティンを練習する形で実施された。最終日までは同志社大学の多目的ホールで練習をおこない、最終日には京田辺市中央体育館などで成果を発表した。1 期、3 期は全国小学生ハンドボール大会の開会式後に演技をおこなった。2 期、5 期は京田辺市小学生ハンドボール交流大会の開会式後（写真 1）、4 期は同志社大学アダム祭の開会式後（写真 2）に演技をおこなった。

教室の各回の内容は表 2 に示した通りである。2006 年度の 1 期は初回でもあり充実した指導を提供できるよう受講児童を 1 年生から 3 年生までの低学年 30 名に限定し各期の回数は 5 回とした。2 期は 60 名で 5 回とした。2007 年度は、受講児童数を 60 名から

表 1 チアリーディング教室の日程と受講児童数

		1 回目	2 回目	3 回目	4 回目	5 回目	申込数	参加者数	内訳					
									1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2006 年度	1 期	7/2 日	7/9 日	7/16 日	7/23 日	7/29 土	102	30	12	11	7			
	2 期	1/27 土	2/3 土	2/10 土	2/17 土	2/24 土	120	60	13	13	13	5	9	7
2007 年度	3 期	7/15 日	7/21 土	7/28 土	7/29 日		80	38	15	14	2	3	3	0
	4 期	10/14 日	10/21 日	10/28 日	11/3 土		81	41	13	11	7	4	3	3
	5 期	2/2 土	2/9 土	2/16 土	2/23 土		43	36	7	8	6	4	2	9

30名に減らし、学生指導スタッフの研修を多くおこない、教室のマニュアル化が進んだため、各期の回数を4回として、3回目に仕上げと作品鑑賞を取り入れた。大学で実施した練習は、表3に示したようなタイムスケジュールであり、実技の時間は午前10時から11時30分までの1時間半であった。教室が開始される1時間前には、講師や学生スタッフ、事務局スタッフが会場に集合し、練習内容やタイムスケジュールの確認をおこなった。

初日は、受講児童全員にチアリーダー教室のテキストを配布し、学生指導スタッフによるデモンストレーション（各期の目標となる発表の演技）と、全体の流れを説明した後、受講児童をグループに分けて、担当する学生指導スタッフを明確にして実技練習を開始した。2回目の教室からは、時間を有効に利用するため、全体で集合する前に学生指導スタッフが担当する受講児童の出欠を確認し、グループごとにウォーミングアップと前回の復習をおこなった。その後、グループごとに練習をその日の課題練習をおこない、全体で

の練習を実施した（写真3）。最終日は発表の1時間前に集合し、準備運動、イメージ練習、発表会場でのリハーサルの後、演技を披露した。成果発表後は反省会と講師・学生スタッフ・事務局スタッフ・保護者らと交流を図った。大会スケジュールによって多少の変更はあった（表3）。この他に、成果発表の前日にはスタッフが会場の確認や位置のポイント付け、音源の確認などをおこなった。

応援ルーティンの演技構成内容は、オープニング曲によりチアリーダーが全国ハンドボール大会またはアダム祭のボードを持ち、軽快なステップで踊りながら入場した。その後、全員がボムで文字を作ったり、位置移動をしたりしながらのスタントを入れたオリジナルダンスを踊り、最後は大会選手への応援コールをおこない、ポーズを決めるものであった。

4. 学生スタッフの育成

チアリーダー教室への参加者に理想的なスポーツ環境を提供し、地域との交流を進め、社会貢献するためには、運営スタッフが果たす役割が重要となる。

表2 チアリーダー教室の各回のテーマと内容

		テーマ	内容
2006 年度	1 回目	チアの仲間になろう！	チアリーダーの説明、基本技術指導
	2 回目	チアの技術を学ぼう！	発表ルーティンの実技指導（1）
	3 回目	チアの技術を学ぼう！	発表ルーティンの実技指導（2）
	4 回目	チアの（応援する）歓びを知る！	仕上げと作品ビデオ鑑賞
	5 回目	チアの（応援できる）歓びを知る！	完成作品の発表会、まとめ
2007 年度	1 回目	チアの仲間になろう！	チアリーダーの説明、基本技術指導
	2 回目	チアの技術を学ぼう！	発表ルーティンの実技指導
	3 回目	チアの（応援する）歓びを知る！	仕上げと作品ビデオ鑑賞
	4 回目	チアの（応援できる）歓びを知る！	完成作品の発表会、まとめ

表3 チアリーダー教室のタイムスケジュール

練習時の基本的タイムスケジュール

9:00～	指導者、学生スタッフ、事務局スタッフ集合、打ち合わせ、準備
9:30～	受講生受付、出欠確認、準備運動・ストレッチ、基本の動き
10:00～	全体集合、挨拶、本時の「テーマ」に沿った内容での技術指導
11:00～	全体練習（位置移動、スタント、ボム文字の合わせ） 保護者に（観客として）本時の成果を見せる
11:20～	クールダウン、受講生とスタッフとのミーティング、終わりの挨拶

最終日の基本的タイムスケジュール

8:00～	指導者、学生スタッフ、事務局スタッフ集合
9:00～	教室受講生集合、控え室にて音楽を聴いてイメージ練習 ストレッチ、軽い動きの練習、会場でのリハーサル練習（通し）
10:00～	開会式発表
10:30～	控え室での反省会、教室閉会の挨拶、指導者・学生スタッフとの交流



写真1 ハンドボール交流会開会式後の成果発表風景



写真3 同志社大学多目的ホールでの練習光景



写真2 アダム祭での成果発表光景

今回のチアリーディング教室は、演技の指導経験を持つ講師以外は主に学生スタッフによって指導がおこなわれており、学生スタッフの育成が重要な課題であった。そこで、学生スタッフを教育するために、様々な

研修を実施した。まず、チアリーダー部全体に対しては、部員全員が参加する全体研修会を年に1回実施した。また、学生指導スタッフに対しては、チアリーディング教室を開催する前に指導の内容などに関する事前研修を実施し、チアリーディング教室の終了後には、当日の指導についての反省会を実施し、1期の教室が終了したあとは事務局スタッフを交えて全体の反省会として事後研修を実施した。

年に1回開催したチアリーダー部全体に対する研修は、チアリーダー部の監督もつとめる講師が担当し、総合型地域スポーツクラブの概要について説明をおこない、チアリーディングの意味やチアリーディング教室の意義に関する講義を2時間程度おこなった。

チアリーディング教室が開催される2ヶ月ほど前より学生指導スタッフに対する研修を3回以上実施した。学内のミーティングルームおよび通常の練習場所

表4 実技指導研修の具体的内容

-
- ・聞きなれた子ども向けの曲（ディズニーなどアニメや子供向けテレビ番組の主題曲）にする。
 - ・動作の繰り返しを多くし、スピードは130～140拍/分にする。
 - ・始まりと、終わりには、ポーズを作るためにインパクトのある効果音を入れる。
 - ・曲の変化と移動開始などで、音楽と動きを合わせる。
 - ・動作に遅れて入ったとしても2回の動きでそろえることができるようにするため、上半身を含めた腕の動きを簡単なもので必ず左右または上下の2回ずつ繰り返しをおこなう。
 - ・ステップを含むダンスや位置の移動では、直線的な動きにして、移動に無理がないかの確認する。
 - ・全ての子どもが平等に前後し、全ての受講児童が客席から見えるように位置を工夫する。
 - ・説明の仕方については、ゆっくり丁寧におこなう。
 - ・見本動作は大きくオーバーな表現でおこなう。
 - ・受講児童がうまくできた時のほめ言葉は、即座にかける。
 - ・対面側と受講児童と同じ側からの2方向で行い、説明をする。
 - ・作品の中での自分と他の人のイメージをつかみ、動きのタイミング、移動の位置のずれ、動きの修正の説明が、短時間におこなうことができ、より充実した練習ができるため、ビデオで撮影しその場ですぐに見せる。
 - ・受講児童の表情、様子をみて、動きの練習内容を調整する。
-

において、毎回1時間程度、講師と学生指導スタッフが参加して、チアリーディングの基礎技術の確認、目標のダンスプログラムの作成、実際の指導方法の研修などを実施した。

チアリーディング教室への参加者は小学1年生から6年生まで幅が広く、体力レベルに大きな差がみられるため、年齢や体力レベルに応じた細心の注意が必要となる。また、教室の最終日には、スポーツ大会やアダム祭などで成果の発表として演技するため、未完成のまま当日を迎えるなどの大きな失敗は許されない。したがって、学生指導スタッフの指導スキルを向上させる必要があり、表4に具体例を示したような内容について、子どもの発育発達状況に適切に対応した指導方法を研修した。また、演技指導では小学生に演技の楽しさを実感させることが大切であり、一日で修得できる内容のプログラム作成になるよう指導した。スタントの安全面については、スリップしないようなシューズの着用と補助マットと補助者をつけることを指導した。さらに、学生指導スタッフに対して、担当者の変更、発表会や発表場所などが変更になっても応用できるように記録ノートの作成を指導した。

チアリーディング教室の終了後、講師と学生スタッフ、事務局スタッフが参加して、受講児童へのアンケートとビデオ撮影した発表作品を見ながら事後研修を実施した。検討内容は、指導スタッフの人数、学生スタッフへの時間的な負担、学生スタッフへの謝金、経費（ボード材料費、ボム代金などを含む）、開講回数や発表の場は適切か、発表作品は適切か、発表時間の配分などであった。

以上のように、今回のチアリーディング教室では、講師と学生指導スタッフが協働で運営することを通して若手指導者の育成を試みた。すなわち、単に講師から学生スタッフへ一方通行で教えるだけでなく、学生に対して選曲や振り付けなどの宿題を与え、学生に考えさせる形式で進め、コーチング、誘導の観点から支援するよう心がけた。また、チアリーディング教室という場を通して学生自身が意欲的に取り組むことで、自分自身の指導スキルを向上させることを目指した。同時に、教室を成功させることで得られる達成感によって自己有能感を高め、学生自身の社会的能力を高めることを目指した。さらに、小学生への演技指導を通して、視聴覚教材などを使った表現力や説明の仕方などプレゼンテーション能力を高められるよう心がけた。同時に、挨拶などの礼儀作法や身の振る舞いなど、社会人としての素養を高められるよう心がけた。

Ⅲ. 受講児童および保護者へのアンケート調査

1. 方 法

1期から4期までの受講児童169名とその保護者を対象としてアンケート調査を実施した。チアリーディング教室の1回目に質問紙を配布し、全日程終了後に回収した。

受講児童への調査内容は年齢、性別をたずねた後、これまでに運動やスポーツを熱心に取り組んだことの有無を聞いた。次に、今回のチアリーディング教室に参加したきっかけについて「広報を見て」「親に勧められて」など10の選択肢の中から複数回答可として選択させた。また、今後、チアリーディングをどの程度おこないたいかについて「とてもやりたい」から「やりたくない」までの5件法にて回答させた。さらに、チアリーディング教室全体について、楽しさ、やりやすさ、指導者の説明、安全性、環境設備、全体を通しての満足度を5件法で回答させた。

受講児童およびその保護者に対してチアリーディング教室に対する感想や意見を自由記述にて回答させた。

2. 結 果

回答は合計128名より得られ、回答率は75.7%であった。回答はすべて女性であった。調査結果を期ごとにまとめ表5に示した。

63%の児童が運動やスポーツをこれまで熱心に取り組んだ経験があると回答し、54%の児童が現在も運動やスポーツを実際におこなっていると回答した。また、今後、運動やスポーツを実施したいかという問いに対しては90%をこえる児童が「はい」と回答した。

今回、チアリーディング教室に参加した動機に関しては、回答が多いものから順に、「チアリーディングをやりたいから」「踊りたいから」「格好いいから」「好きだから」であった。また、きっかけとしては、「広報をみて」が最も多く、次が「親に勧められて」であった。

本格的なチアリーディングの経験については、90%の児童が「初めて」と回答した。今後について、84%の児童が今後もチアリーディングを「とてもやりたい」と回答し、「とてもやりたい」と「やってもいい」を合わせると、97%にのぼった。

今回の教室全体に関する質問では、楽しさに関しては「とても楽しかった」と「まあまあ楽しかった」と回答した受講児童が98%であり、安全性、環境・施設、教室全体に関しては、「とても満足だった」と「まあまあ満足であった」をあわせるとすべて100%と非常に満足度の高い回答が得られた。

チアリーディング教室に対する自由記述に関して、

表5 受講児童を対象としたアンケートの結果

Q1 これまでに運動・スポーツを熱心に取り組んだことがありますか

	1期	2期	3期	4期	合計
はい	13	39	13	15	80
いいえ	9	10	12	17	48

Q2 あなたは現在、何か運動・スポーツをしていますか

	1期	2期	3期	4期	合計
はい	16	29	9	16	70
いいえ	6	20	16	16	58

Q3 あなたは将来、できるならば運動・スポーツをしたいですか

	1期	2期	3期	4期	合計
はい	21	45	24	28	118
いいえ	0	4	1	3	8

Q4 今までにチアリーディングをしたことがありますか

	1期	2期	3期	4期	合計
初めて	22	46	24	23	115
1～2回	0	2	0	9	11
そのほか	0	0	1	0	1

Q5 あなたが今回のチアリーディング教室に参加した動機（きっかけ）は

	1期	2期	3期	4期	合計
広報を見て	8	16	10	9	43
親に勧められて	7	17	7	8	39
学校関係で	2	3	3	8	16
友人に誘われて	2	8	4	4	18
やりたいから	12	25	14	22	73
格好いいから	6	10	3	11	30
好きだから	3	10	6	10	29
踊りたい	10	25	8	12	55
テレビなどを見て	3	9	4	7	23
大会・イベントなど実際にしているのを見て	0	3	4	1	8

Q6 あなたは、今後チアリーディングをどのくらいやりたいですか

	1期	2期	3期	4期	合計
とてもやりたい	19	37	23	29	108
やってもいい	3	10	2	3	18
どちらともいえない	0	2	0	0	2
あまりやりたくない	0	0	0	0	0
やりたくない	0	0	1	0	1

Q7 教室全般の楽しさについて

	1期	2期	3期	4期	合計
とても楽しかった	18	39	24	31	112
まあまあ楽しかった	4	9	0	0	13
どちらともいえない	0	1	0	0	1
少しつまらなかった	0	0	1	0	1
とてもつまらなかった	0	0	0	0	0

Q8 チアダンスのやりやすさについて

	1期	2期	3期	4期	合計
とてもやりやすかった	18	29	18	23	88
まあまあやりやすかった	3	17	6	8	34
どちらともいえない	0	1	1	0	2
すこしやりにくかった	1	2	0	0	3
とてもやりにくかった	0	0	0	0	0

Q9 指導者の説明について

	1期	2期	3期	4期	合計
とても分かりやすかった	20	38	20	29	107
まあまあ分かりやすかった	1	10	4	2	17
どちらともいえない	0	1	0	0	1
少しわかりにくかった	1	0	1	0	2
とてもわかりにくかった	0	0	0	0	0

Q10 安全性について

	1期	2期	3期	4期	合計
とても安全だった	20	42	23	29	114
まあまあ安全だった	2	7	2	2	13
どちらともいえない	0	0	0	0	0
少し危なかった	0	0	0	0	0
とても危なかった	0	0	0	0	0

Q11 環境・施設について

	1期	2期	3期	4期	合計
とても満足だった	16	44	22	27	109
まあまあ満足だった	6	5	3	4	18
どちらともいえない	0	0	0	0	0
少し不満だった	0	0	0	0	0
とても不満だった	0	0	0	0	0

Q12 教室全体を終えて

	1期	2期	3期	4期	合計
とても満足だった	22	40	24	30	116
まあまあ満足だった	0	9	1	1	11
どちらともいえない	0	0	0	0	0
少し不満だった	0	0	0	0	0
とても不満だった	0	0	0	0	0

受講児童の感想は、長期継続サークル化への希望、教室の開催継続と回数増加の希望が大多数であり、講師と学生スタッフへの指導方法の感想、受講児童の意識向上の感想、チアの技術に関する感想、将来の大学チアリーダーへの展望、大学の開放に關しての感想、講師やスタッフへの感謝の言葉が多かった。

保護者の記述は、受講児童より多く、アンケートを回収できたほとんどに記述があり、記述内容も量が多く全文を掲載することが困難であるため、代表的なものをまとめて資料として掲載した。保護者からの感想も、教室継続、サークル化への要望は多く、また同志社大学と京田辺市との双方の利点を生かした今回の教室への評価は良好なものが多かった。アンケートの回答者の中にはサークル化に協力したいという保護者からの声もみられた。

IV. 考 察

1. 満足の要因

2006年から2007年にかけて開催されたチアリーディング教室は受講児童にとって非常に満足の高いものであった。その背景を探るといくつかの要因が考えられる。1つには大学の協力による施設などの環境がよかった点であり、2つめには、教室の成果を発表できる機会があったこと、3つめは地元の住民のニーズに適していた点であり、4つめには指導スタッフの充実が挙げられる。このように同志社大学、京田辺市、地元住民、学生の四者の果たす役割の重要性が認められる。

1) 施設等の環境整備—大学の協力

アンケート調査の結果をみると、施設・環境について非常に高い満足度が得られた。今回のチアリーディング教室では、同志社大学スポーツ支援課の協力により大学施設を使用できたことが満足度が高かった大きな要因のひとつと考えられる。使用した多目的ホールは、60人が同時に活動するには十分な広さであった。しかし、児童の練習風景を見学するために両親や祖母ら保護者がホールに集まったため、2期ではホールが人で溢れたため、観客席を解放して保護者らの見学スペースとした。このように、多目的ホールは舞台設備やロビー、観客席も備わっており、付き添いの保護者が練習を見ながら、待機することができ、非常によい環境であったといえる。また、多目的ホールは冷暖房が完備されており、受講児童だけでなく指導スタッフにとっても動き易く、暑さによる汗などで床がずべることもなかった。補助マットも必要な箇所に容易に置くことができ、安全で快適な練習場所が確保されたため、計画通りの練習内容で進めることができた。さ

らに、視聴覚設備も整っていたため、練習風景をビデオにおさめて、動作の確認などをすることができ、充実した演技指導となった。

今回の教室では、非常に環境の優れた多目的ホールを使用することができただけでなく、同志社大学のスポーツ支援課の協力により、大学構内に駐車場を多く確保することもできた。このことで、受講児童の両親による送迎が可能となった。また、発表時は、京田辺市より十分な広さのステージ、舞台、控え室が提供されたことで、施設に關しては良好な状況であった。

以上のように、子どもを対象とする教室を開催するには、受講児童と指導スタッフが活動する場所だけでなく、保護者が見学するスペースや駐車場の設備など、環境を整えるためには非常に多くの点に気を配る必要があるといえる。この観点からも、大学のスポーツ支援課の協力、および京田辺市教育委員会の職員の協力がチアリーディング教室を開催していく上で必須といえる。

2) 発表の場の設定—行政の協力

今回のチアリーディング教室では、教室の成果をセレモニーでの演技という形で一般に公開した。成果発表の場は、京田辺市で開催される(1)全国小学生ハンドボール大会、(2)京田辺市小学生ハンドボール交流大会、(3)アダム祭の開会式であった。

1988年に開催された国民体育大会京都大会では、京田辺市がハンドボールの競技会場となり、それ以降、京田辺市の小学校では、ハンドボールに力を入れている。全ての小学校にハンドボールクラブがあり、活発に活動しており、学年ごとのチームが出場する交流大会が毎年2月下旬の土曜日に開催されている。また、京田辺市は全国小学生ハンドボール大会の開催地であり、毎年8月初旬に、小学生の全国大会が開催され、スポーツによる交流がおこなわれている。いずれも京田辺市民にとってなじみの深い行事での成果発表の場の設定であった。ハンドボール交流大会には京田辺市内のすべての小学校が参加しており、チアリーディング教室に参加している児童は、最終日の成果発表としての演技において、自分の小学校を応援することができた。応援コールの中に、各小学校の名前を入れるため、演技をより身近に感じることができ、熱心な取り組みにつながった可能性が考えられる。また、全国ハンドボール大会では自分と同じ世代の選手を応援することになり、演技に対する意欲が高まった可能性も考えられる。このように、同じ世代の小学生で結成したチアリーダーによる応援活動をすることで、単に競技者として参加するだけではなく、応援などの立場も含まれているチアリーディングという競技の特性が活かされ、「支えるスポーツ・見るスポーツ・参加するスポー

ツ」が体験できたといえる。

2006年度の教室が好評であり、2007年度は受講希望者が多くなることが予想されたため、教室の数を増やし、その発表の場を同志社京田辺アダム祭開会式セレモニーとした。このアダム祭とは、京田辺市と同志社大学の産官学民連携による取り組みとして、2006年から11月の文化の日前後に京田辺市役所周辺と同志社キャンパスを中心に開催されるようになったものである。したがって、チアリーダー部と教室を受講した地元の児童と一緒に演技を発表することは、アダム祭の理念に合致するものであり、意義が大きいといえる。

このように、今回のチアリーディング教室では、単に身体を動かし、運動スキルを身に付けるだけでなく、発表の場を設定することで、受講児童に対して大きな達成感が得られたと考えられる。ハンドボール大会の開会式やアダム祭など発表の場の設定には、行政としての京田辺市の協力がなければ達成されなかったものである。スポーツ教室の開催には行政が果たす役割も大きいといえる。また、今回は成果の発表に向けて特に新しい行事を開始したのではなく、地元にて従来から開催されていた催しを利用したものである。無理に発表の場を創出するのではなく、今回の事例のように大きな負担をかけることなく大きな成果が得られる可能性を示唆する。

3) 地元住民のニーズ

チアリーディング教室を開催する前年度の2004年4月に放送されたテレビドラマ「天国への応援歌 チアーズ〜チアリーディングにかけた青春〜」は、実在する高等学校のチアリーディング部をモデルにした物語であった。また、2004年10月から2005年3月にかけて放送されたNHK連続テレビ小説「わかば」は、大学のチアリーディング部に入って活動している学生の話で、NHKの番組宣伝用ポスターでもチアリーダーになった主人公の写真が掲載され、防火週間啓発ポスターにも同様のものが使用され全国に掲示された。このように、視聴者の性別、年齢層は小中学生とその母親たちが多く、一般的にも社会的にもチアリーダーに関心が寄せられるようになった。さらに、2005年秋から2006年にかけて、民間テレビ局製作の一般視聴者を対象としたゴリエ杯チアダンス選手権は、一般参加型で開催し、入賞チームはゴリエとプロモーション活動ができる特典があった。2005年末のNHK紅白歌合戦にも紅組のメンバーとゴリエチアチームは出演している。この番組の影響もあってあらゆる年齢層にチアが浸透していった。また、サッカー（Jリーグ）やアメリカンフットボール（NFL；National Football League）、バスケットボール（NBA；

National Basketball Association）など、専属のチアリーディングチームもプロ選手と同じように活躍している様子やプロ野球で試合前後やイニングの合間にチアリーダーが試合を盛り上げている様子がテレビ放映されることが多くなり、このようなスポーツ番組を見る男性のファン層にもテレビなどマスコミを通じてチアリーダーを見る機会が増えた。

京田辺市においても、市政記念イベントなどでチアリーダーによる演技がおこなわれたり、市民運動会や市立幼稚園の運動会で応援を依頼されたりすることが多く、チアリーディングは市民や子ども達の目になじみのある競技であった。アンケート結果からも、チアリーディングに対する興味関心が高いことがうかがわれ、非常に多くの児童が参加を希望したものと考えられる。また、市のスポーツ少年団には、サッカーや野球など男子のスポーツ種目が多く、今回実施したチアリーディングは女子を対象としている点において女子種目のスポーツ教室という地元住民のニーズとも合致し、成功の要因となったと考えられる。

このように、大学や行政の協力だけでなく、今後、総合型地域スポーツクラブとして発展させているためには、地元における住民の期待やニーズを調査し、そのニーズに合致した教室等を実施していくことの重要性が示唆された。

4) 指導スタッフの役割

チアリーディング教室に参加した児童からは、「教えてくれたお姉さん達の説明はすごく分かりやすかった」や「お姉さんが優しく教えてくれたので、とても楽しくできました」といった声が聞かれた。また保護者からも「チアの先生方が子どもの目線まで腰を落として話をしてくださるのが印象的でした」や「同志社大学のお姉さんとふれあいを持ち、あこがれていたようです」という意見や感想が多数みられた。これは、指導スタッフの育成が比較的うまくいったことを表していると考えられる。特に、人に対する教育方法を学んでいない学生にとって、他者に演技の指導をすることは多くが初めての体験であった。しかし、事前に研修をおこなうことでチアリーディングの説明方法だけでなく、チアリーディングの専門性を備えた同志社大学応援団チアリーダー部員としての自覚や身の振舞い方、挨拶を含めた礼儀作法など質の高い指導者としての指導方法を学習させたことがよい影響を与えた可能性が考えられる。

2. 今後の課題

チアリーディング教室は非常に満足度の高い教室であった。しかし、今後継続して実施していく上で解決しなければならないいくつかの課題もみられた。課題をまとめると以下になる。

1) 参加人数

2006 年度に開始された第 1 期のチアリーディング教室では、多くの児童が参加を希望したため、参加者は抽選によって決定した。そのため、抽選に外れた子どもやその保護者を中心に、参加者数の増加が求められた。その意見を受け、2006 年度の 2 期目の受講者数を 60 名に、2007 年度は 3 期に分けて教室を開催し、受講者数の増加を試みた。しかし、2006 年度の 2 期目のチアリーディング教室は、学生指導スタッフの数が 1 期と同じであったため、1 人の学生指導スタッフが多く児童を指導することになってしまい、指導が雑になるばかりか、受講児童を十分見ることができないという安全面での反省が残った。

また、会場が受講児童で一杯になってしまい、保護者の居場所がなくなったという問題も生じた。このようなことを考慮すると参加者数は、40 名が限界ではないかと考える。

2) 開催時期と学生スタッフの意欲

初年度に教室依頼をチアリーディング部で取り組みか大学から打診があった。そのときの運営学年が非常に子どもが好きで、積極的にチアリーディング教室の開催を希望した。また、指導研修にも意欲的に取り組み、部活動の地域貢献という位置に据えた取り組みとして実施することができた。さらに、次年度には学生指導スタッフを 3 人ずつの交替制として継続をするよう環境の整備をおこなった。しかし、チアリーダー部の正式な取り組みとしてチアリーディング教室を位置づけてはいるものの、大学という性質上、毎年学生が入れ替わるため、たとえ実技の研修をしたとしても、意欲の低い学生が多い学年が存在する可能性がある。すなわち、チアリーディング教室を担当する学年のムードややる気に左右される結果となってしまう。

応援活動や競技大会の練習に支障のない時期に教室を開催するよう時期を設定した。この時期は授業のない試験期間中であり、従来、部活動は自主練習の時期であったため、部員にかかる負担はそれぞれの学生の意欲に依存する結果となり、コンスタントに質の高い指導を継続することが必ずしもできるとは限らない。

また、開催時期としては、2007 年度の 2 期目はチアリーダー部の応援活動のもっとも忙しい時期と重なったため、チアリーダー部員の部活動での身体的負担が感じられた。そのためチアリーディング教室の開催時期は、大学年間スケジュールや応援活動の少ない時期を考慮し、7 月から 8 月、1 月から 2 月が適当であると考えた。

3) 負担の偏り

チアリーディング教室終了時の保護者のアンケート結果に、「もう少し回数を多くできないのか」や「サー

クルを作っていただけではないでしょうか」のような意見が多数あった。保護者の意見は十分理解できるが、チアリーダー部の学生の協力がなければチアリーディング教室を開催することは不可能である。したがって、学生の負担や施設の問題等を考えると、1 期あたりの回数をこれ以上増やすことも困難であると考えた。

教室後のサークル活動の実施について、本教室の延長線上で考えると、指導スタッフや施設を提供している同志社大学の負担が大きいといわざるを得ない。また、負担が大きいだけでなく、大学側が受けるメリットが明確ではない。今後、安定して活動を継続していくためには、三者が役割を分担し、負担が偏らないようにすると同時に、大学のメリットを確立する必要性があると考えられる。たとえば、今回のチアリーディング教室では、児童に演技を指導することによって学生指導スタッフに演技者として、人間としての成長がうかがわれた。このように、大学にとっては、学生の成長というメリットが考えられる。したがって、京田辺市や住民には学生を成長させるという意識を持って、教室やサークルに参加することが今後期待される。

同時に、保護者、大学、京田辺市の三者が役割を分担し、どこかに負担が偏らないようにすることが必要である。たとえば、保護者はサークルを立ち上げ、会費や登録者の管理、指導者や会場の確保などサークル全体のマネジメントをする。同志社大学はサークルからの依頼を受け、チアリーダー部に指導者派遣の打診をする。京田辺市は、場所の手配を進め、また安全面の確認をする。このような形が、京田辺市民、京田辺市、同志社大学の三者とも大きな負担がかからないでサークルを運営する理想ではないだろうか。

今回、チアリーディング教室に参加した児童だけでなく、多くの保護者が会場に詰めかけた。子どもの教室開催中待っている親の中には、チアリーディングに関心を持つ親もあり、やってみたくて隅の方で一緒に動いている親もあった。保護者が子どもの練習風景を見学するだけでなく、子どもと同じ時期に親への教室や、保護者ら大人が参加するイベントなどを開催することも 1 つのアイデアである。これは総合型地域スポーツクラブの理念にも合致するといえる。

V. まとめ

2006 年度から 2007 年度にかけて同志社大学と京田辺市とが主催となって開催されたチアリーディング教室について、その概要をまとめ、受講児童を対象としたアンケート結果を整理し、本教室の成果と課題についてまとめた。今回のチアリーディング教室では大学の優れた施設を使用することができ、安全面を含めて

受講児童にとって非常に満足のいく教室を開催することができた。また、京田辺市の協力のおかげでハンドボール大会などの競技大会の開会式において成果を発表する機会が得られたことも、受講児童にとって大きな動機付けとなったと考えられる。さらに、女子小学生を対象とした点や指導に当たった学生スタッフへの技術研修もうまくいった点なども成功の要因として考えられる。

今後、チアリーディング教室からチアリーディングサークルなどへ発展的に展開し、総合型地域スポーツクラブの1つのモデルとなる可能性を秘めているといえる。しかし、今後、チアリーディング教室を継続する、あるいは、サークル化するためには、同志社大学、京田辺市、住民の三者における負担をうまく分担しながら、どこかに負担が偏らないような仕組みを構築することも大切であると考えられる。

謝 辞

本研究のチアリーディング教室の開催、および遂行にあたり、同志社大学学生支援センタースポーツ支援課の水田正一氏、松本慎平氏、ならびに職員の方々、京田辺市教育委員会社会体育課の奥田清氏ならびに職員の方々、京田辺・同志社スポーツクラブ事務局の藤

原涼子氏には、多大な協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

- ・海老島均，辻憲一郎：BIWAKO SPORTS CLUB の現状と課題，スポーツ開発・支援センター年報4巻，1号，2007.
- ・藤田修一，山口泰雄：総合型地域スポーツクラブのマネジメントに関する研究—クラブサービスへの期待と評価の関係から—体育・スポーツ科学 17：17-25，2008.
- ・京都府教育委員会：京都府スポーツ振興計画，2004.
- ・文部科学省：スポーツ振興基本計画，2006.
- ・大勝志津穂，守能信次，來田享子：クラブとの関わり方による地域スポーツクラブ会員の特性—会員の实態調査から—，中京大学体育研究所紀要 22：83-90，2008.
- ・社団法人日本チアリーディング協会：最新チアリーディング入門，タッチダウン，2005.
- ・山口泰雄：地域を変えた総合型地域スポーツクラブ，大修館書店，2006.
- ・山口泰雄，長ヶ原誠，伊藤克弘，石澤伸弘：地方自治体による地域スポーツクラブの育成・支援に関する研究—スポーツクラブ21 ひょうごのケーススタディー—日本体育学会体育社会学専門分科会発表論文集，99-104，2002.
- ・財団法人日本体育協会：総合型クラブ創設ガイド，2008.

資料1 児童の感想（抜粋）

- ・私はチアリーディングが大好きです。とても楽しかったです。またみんなと一緒に踊りたいです。
 - ・自分自身で最後まであきらめず、最初から最後まで頑張れたと思う、楽しかった。またやりたいと思った。
 - ・はじめてのチア教室の時は少し難しかったけど、だんだんできるようになっていくとおもしろく、楽しくなってきました。キューピーダンスが特に楽しかったです。また今度参加したいです。もっともっとチアリーディングを続けたいです。
 - ・チアリーディングをやってみて、やっている仲間を見てとてもおもしろくて楽しかった。学生さんの説明も分かりやすかった。またチアリーディングをやる機会があったら、難しいものにチャレンジしてみたいです。
 - ・いろんな中学・高校・大学にチアリーディングやダンス部を作ってほしい。教室の内容は、とても分かりやすく、すぐに覚えてしまいました。本番も練習の成果を生かして頑張りたいです。チアリーディングのみなさんもいろんな技をして頑張ってください。これからもその踊りを覚えて、家でも踊ります。友達にもその踊りを教えてあげたいです。チアリーディングのみなさん本番も一緒に全力を尽くしてがんばりましょう。今までありがとうございました。
 - ・5、6年生のお踊りは格好良く、今は3年生だけど5、6年生になったら、あの格好良い踊りをやってみたいです。みんなで協力してつくる役割があることが大切だとわかった。
 - ・チアリーディングの踊りを教えてもらっているときに、テーブルトップ(?)の一番上になって、嬉しかったです。このままずっと続けてやりたいです。
 - ・最初は、テレビでしかどんなのかわからず、アテンション(?)やハイブイ(?)は知らなかったけど分かってよかった。とても人気の教室で応募者が多いというのを聞いてびっくりです。チア教室に選ばれて良かったです。
 - ・お姉さんが優しく教えてくれたので、とても楽しくできました。またしたいです。(姉)高学年の部や中学生の部もあればいいなと思いました。先生や学生のコーチありがとうございました。
 - ・笑顔でいつも元気であると言うことを教えてもらった(とても心に残っている)。
 - ・チアリーディング教室をもっとたくさんしてほしい。教えてくれたお姉さん達の説明はすごく分かりやすかったです。一生懸命教えてくださりありがとうございました。
 - ・踊るのが楽しかった。ボードやボンボンを持って嬉しかった(楽しかった)もっと習いたいです。
 - ・お姉さんみたいになりたいです。大学に行ったらチアリーダーになりたいです。
 - ・教室が終わった後も続けられる場所があればいいかと思います。チアリーディングのクラブがほしい。教えていただいたチアの動きを忘れるのは残念だし、毎回楽しく習っていたので続けたいです。
 - ・もっと長い期間になって、習い事として続けられればいいなあとと思います。サークルができれば是非入りたい。京田辺市につくってください。
 - ・短期でも長期でも良いのでまた習いたいです。冬休みにも行きたいです。
 - ・大学のお姉さん(先生)のことが大好きになり、同志社大学に入ってチアをやりたい。
 - ・同志社大学内に入れて嬉しかった。今回参加できて良かった。なぜ4回で終わるのだろう？
 - ・とても楽しく、先生も優しく、よくわかるようにご指導して下さいありがとうございました。今回初めての参加でしたが、また参加したいと思いました。
-

資料2 保護者の感想（抜粋）

- ・親子共々、チアリーディングに興味を持っていて、チアの大会などもテレビでみていたので、今回参加することができてすごく良かったです。指導していただいた講師の先生、学生さんにも忙しい中、子ども達相手に優しく、丁寧な説明で接していただき感謝しています。また、礼儀正しさと元気のよさは、子供達の良い手本でした。教室初日に同志社のチアリーダーの人達の踊りをみて、全身鳥肌が立ち、涙が出るほど感動しました。笑顔と切れのある踊り、ノリのいい曲、すべてに引きつけられました。子どももはじめはとまどっていました、また本当に完成できるのか不安でした。回を重ねる毎にチアの魅力にはまってしまったかのように子どもはみるみる上達していきました。
- ・指導方法、教室の目標から指導内容、成果発表の方法、開催中の保護者の大学構内入校、観覧場所に至るまで、きちんと説明してもらったので安心して保護者同伴で大学構内にいることができ、娘も安心して楽しく参加することができました。

- ・京田辺市に住んでいるものの、なかなか同志社大学の学生さんに触れ、大学内に入る機会はないのですが、チア教室の練習を通じて交流の場のチャンスに巡り会え、ラッキーでした。小さな子ども達が大学の校内に入ったり、学生さんとふれあうことができる環境というのは京田辺市にある同志社大学との連携ならではの強さを感じました。
- ・普段入ることのできない大学に行き、子どもも「将来、大学は同志社に行く」なんてことも言っています。地域と大学が一つになり、とても良い取り組みだと思います。チアリーディング教室で本当に良い経験をさせていただきました。
- ・学生さんはとても優しく、上手に指導して下さいました。子どももとても喜んでいました。ありがとうございました。娘もお姉さん達のように笑顔が美しい女性になってくれたらと思います。
- ・チアリーダーの本当の意味や礼儀、そして、スポーツのマナーや親としての支え方なども含めてご指導いただき、先生の指導力に驚きました。学生さん達も子どもの能力をととても優しい言葉で短い間にひっぱり出してくださって感謝しています。きびきびとした礼儀良さを親の私たちも見習いたいです。大舞台の発表の場も最後にあり親子共々、とても感動しました。ありがとうございました。
- ・教室の成果を発表する場があり、同大のお姉さん達に大学内で教えていただくことができ、とても良い経験だったと思います。同志社大学のお姉さんとふれあいを持ち、あこがれが強くなったようです。また、機会があれば是非参加したいと思います。娘もやりたいと強く望んでいます。
- ・どの地域にも言えることだと思うのですが、少年野球、少年サッカー等男の子の取り組んでやれるスポーツはたくさんチームがあり、うらやましいと思うのですが、女の子の取り組めるスポーツはなかなかチームなども存在しません。今回この教室に参加させてもらい、汗をいっぱいかいて、大きな声を出し、団体競技に集中している子ども達の姿をみると、もっとこういう場があればと思いました。個人スポーツはまたそれ大変なことで勇気のいることではありますが、皆で一つの目標に向かう勉強ができたならとても良い経験になるのではないかと思います。京田辺市でもこのような取り組みをもっと推進していただければ嬉しいです。色々な課題や問題もあるかと思いますが、近隣の精華町や八幡市には、小学校区に女の子が参加できる新体操やチアのクラブがあると聞きました。是非京田辺にもチームを作っていただき、先生方に教えていただきたいです。本当に今回は毎週が楽しみで、子どもも生き生きしていました。
- ・是非このような機会をもっと作ってほしいと思います。この教室が終わった後にサークルなどを作っていただくことができないのでしょうか。このまま終わってしまうのが残念でなりません。何らかの方法で継続させてください。ぜひ指導を続けてください。もし、サークルなど立ち上がるようなら是非メンバーとして参加したいです。月謝などを払ってもやりたいです。
- ・今回の参加は、私（母親）の強い勧めからでした。というのも、私が若い頃やりたかったスポーツがチアリーディングだったからです。子ども達がチアしている姿を見て、益々、私もやりたいと思いようになりました。チアは若い人しかできないのでしょうか？ぜひちょっと中年も参加できるチアリーディング教室を企画していただきたいなと思いました。
- ・チアリーディングのサークルを新たに新設してください。私自身が大学時代、チアリーディング部に所属していたこともあり、是非娘にもやらせてみたいと思っていました。今回、大変レベルの高いチームのみなさんに指導していただき、とても良い経験になりました。できれば継続して参加したいと思っています。1ヵ月といわず2〜3ヵ月あれば嬉しいです。一応経験者なので何かお手伝いできればやってみたいと思いました。子どもはもちろん、親も楽しむことができました。
- ・引っ越して京田辺に移ってきました。新一年生で小学校に入学し、少々ベソをかきながら学校に通学しておりましたが、今回のチアに当選し、発表できることで自信がつき、できるならばこのままずっとチア教室があってほしい！！程、生活が楽しくなりました。
- ・予想以上に本人が気に入って、身体を動かすことだけでなく、仲間と力を合わせて、目的を持って取り組んでいることがとても良かったです。みんなと一緒にのこる楽しさとまではいかないが、ビデオを見てきれいやった”とか、“みんなのボンボンがそろっていた”と言っていました。今後チームができればいいと感じました。今後も親子で楽しめるスポーツの指導を期待しています。
- ・場所も初めてで、知識がないままのスタートだったので楽しむ余裕がなかったように思います。もう少し回数が多ければ、チアリーディングの奥深い部分やお友達との交流など学ぶことが多かったように思います。ぜひ継続して長い期間やっていただきたいです。